



第13回京都学生祭典を終えて



京都学生祭典とは / ご挨拶



組織委員会委員長
赤松 徹眞
公益財団法人
大学コンソーシアム京都
理事長

大学コンソーシアム京都は、産・学・公の連携の組織で、大学が広く社会から期待されていることに対して連携事業を積み上げて、京都の未来を、日本の未来を創造する役割を担っています。本年度第13回目となる京都学生祭典は、大学コンソーシアム京都としての1大事業であり、本年は「京都があなたを魅了する」をコンセプトに、23大学から219名の実行委員が「学生のまち・京都」を盛り上げ、1年間かけて創り上げてきました。その結果、14万4000人という多くの方々にご参加をいただき、大盛況のうちに終えることができました。例年高い評価をいただいておりますのは、すぐれた知性、企画力、行動力、情熱をもった学生の活動モデルや、多様な地域貢献活動です。この学生祭典が、京都から国内外に広く発信され、高く評価されることを期待するとともに、学生祭典に協賛いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。



企画検討委員会委員長
木村 光博

「京都があなたを魅了する」というコンセプトを掲げた第13回京都学生祭典。新しく生まれ変わった岡崎公園を舞台に華々しく開催する事ができました。スタッフ不足などで出番がなかった祭典シンボルのみこしが四年ぶりに勇壮に担ぎ上げられ、何組ものプロミュージシャンを輩出してきた音楽祭典 KSMA も再稼働。「国際化」のキーワードの元、お国自慢の料理コンテストが盛り上がりを見せ、おどりの「京炎 そでふれ！」はギネス世界記録®を獲得しました。学生達の熱い想いは、地域の方々の御支援を賜り、産官学が一体となったオール京都に育まれて、京都の四大祭りを目指す次なるステージを体感させて頂いたのではないかと深く感謝しております。祭典にお越し頂いた皆様、関わって頂いたすべての皆様方により厚く御礼申し上げます。誠に有難うございました。



実行委員長
京都女子大学 3 回生
堀瀬 奈央

第13回京都学生祭典実行委員会は「京都があなたを魅了する」というコンセプトのもと、更にall京都で活動すること、そして目の前の人ひとりを京都学生祭典に魅了することを目指し、活動して参りました。結果、昨年度より約4万人も多い14万4,000人の方々に来場して頂きました。このような活動を通して感じたこと、それは「学生の活動をall京都で応援してくれるこの地だからこそ、溢れんばかりの学生のパワーが発揮できるのだ」ということです。「学生のまち京都」だからできること、all京都だからこそできることに挑戦し、更に皆様に変えられる祭りを創って参ります。今後の京都学生祭典にどうぞ期待ください。最後になりましたが、第13回京都学生祭典に御支援・御協力賜りました皆さまに厚く御礼申し上げます。



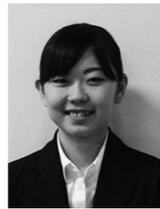
副実行委員長
京都女子大学 3 回生
河上 葵

第13回京都学生祭典が無事開催出来ましたこと、また産・学・公・地域の皆様のご多大なるご支援・ご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。第13回京都学生祭典は「京都があなたを魅了する」というコンセプトのもと、all京都で活動して参りました。今年はいよいよ京都学生祭典に携わってくださった多くの方々との繋がりが、京都の魅力を感じた1年間でした。京都学生祭典を創る学生は毎年変わっても、学生の京都学生祭典への想いや情熱は変わりません。今後10年20年100年と京都に根付く、京都の皆様から愛される祭りとなるよう更なる発展を心から願っております。



副実行委員長
立命館大学 3 回生
中山 仁人

この1年間で私が最も実感したことは、これまでの京都学生祭典の活動が少しずつ成果を出し始めているということです。今年の大きな躍進ともいえるギネス世界記録®達成は、「京炎 そでふれ！」が11年かけてファンを増やし、京都独自のおどりとして確立されてきた結果であると感じます。また、今年はいよいよ京都学生祭典のシンボルである京炎みこしを無事復活させることができました。この京炎みこしをはじめ、本祭では復活する企画が多くあり、今年、新しいことに挑戦しながらも、これまで続けてきた活動をしっかりと振り返り、より深められた年だったと思います。今後も京都の活性化を目標に、更なる躍進を目指します。



副実行委員長
同志社大学 3 回生
西村 和胡

第13回京都学生祭典では、「国際化」を柱の一つとして主に留学生との連携を目指して活動してきました。月に一度の留学生との交流企画、広報物の英字化、京炎 そでふれ!の留学生チームの活躍など、その活動は1年間の随所に表れてきました。本祭においても当日スタッフ・出演者として留学生に数多く参加して頂き、また来場者としても多くの外国人の方々にご来場いただきました。本祭の国際色豊かな企画からも、多くのご来場者の皆様に京都の新しい魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。そして年間を通じて留学生との連携のためにご協力頂いた皆様に、深く御礼を申し上げます。来年も京都の活性化を目標に、更なる躍進を目指します。

京都学生祭典とは

「学生のまち京都」だからこそできる学生プロデュースの「祭」、それが京都学生祭典です。学生と産・学・公・地域が互いに連携し、京都の魅力を発信しています。第13回京都学生祭典は「京都があなたを魅了する」をコンセプトとして実行委員を中心にall京都で創り出す「京都」を通じて、すべての「あなた」一人一人を魅了することを目標に活動してきました。また今年はいよいよ「国際化」「関係者数20万人」を2つの柱とし、積極的に国際交流や地域交流を行い発見した新たな魅力をも全ての「あなた」に発信し、余すことなく京都の魅力を発信してきました。

第13回京都学生祭典「関係者数20万人達成！」

今年度、国際化を推進することで新たな層を取り込むとともに、これまで12年間で築いてきた関係を更に深めることで、第13回京都学生祭典実行委員会に関わってくださった方々が20万人を超えることを目指し1年間活動してまいりました。

そして関係者数「**283,205人**」を達成することができました。

※この「関係者数」にはイベントや企画の来場者数だけでなく、年間を通じた活動の中で協力・連携いただいた方々も含まれます。



ご挨拶



企画運営部長
立命館大学 3 回生
漆間 智彦

私たち企画運営部は、本祭を目標に1年間活動してきました。来場者の方により楽しんで頂き、より笑顔になってもらうことを考えてきました。そして当日は、お客さんの笑顔が会場中に溢れており、本祭が終わった今、「やり切った」という思いでいっぱいです。これはおそらく実行委員の笑顔が、出演者や当日スタッフに伝わり、さらにお客さんに伝わっていった結果だと思えます。そのような笑顔あふれる本祭を作り上げることができたすべての実行委員を誇りに思うと同時に、出演者や協力団体の皆さんなど、京都学生祭典に携わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。



営業部長
京都女子大学 3 回生
石津 菜優

第13回京都学生祭典にご支援・ご協力いただきありがとうございます。一年間、営業部として京都学生祭典のファンを増やしたいという思いで取り組んできました。訪問に行く度「応援しているよ」「頑張ってるよ」などの温かい言葉をかけていただき、たくさんの方の熱い思いを感じると同時に、私たちの活動の原動力にもなっていました。そして改めて、多くの方々に支えられて成り立っていることを実感しました。第13回京都学生祭典に関わっていただいた皆様にこの場を借りて、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



広報部長
京都女子大学 3 回生
井上 裕生

第13回京都学生祭典本祭は、約14万4000人の方にご来場頂くことができました。広報部は今年度、本祭だけでなく自分たちが年間を通してどのようなことをしているのか、日々の活動についての広報にも力を入れてきました。今まで以上に祭典のことを知って頂くことができ、その結果本祭への動員数増加へ繋がったのではないかと思います。また、うちわ配り等の活動では直接応援の声を頂戴することもあり、多くの方に支えられて活動できていることも実感しました。関わってくださった全ての方に、この場をかりて感謝申し上げます。



おどり普及部長
立命館大学 3 回生
吉本 良太

おどり普及部は日頃のおどり披露・出前教室に加え、今年はいよいよ伏見地域でのイベントにおけるギネス世界記録®の達成や伏見稲荷神社・清水寺・京都府立植物園でのおどり広報企画など新たなチャレンジを行いました。そして今年度京炎そでふれ!を知らなかった方々へ積極的にアプローチすることで京炎そでふれ!の新たなファンを作ることに1年間尽力してきました。その結果、本祭当日はおどり披露・出前教室に関わった大勢の方々に来場していただき、京炎そでふれ!を通してできた繋がりを強く感じることができました。一年間、本当にありがとうございました。



警備部長
立命館大学 3 回生
三浦 慧

今年度、警備部は様々な挑戦をしてきました。その中で特に警備部として力を入れたのが、ホスピタリティの強化です。今年度から、企画をしている全ての部署、またインフォメーションをしている営業部や来場者カウンターを活動している広報部と連携をして、ホスピタリティマニュアルを作成し実践しました。また、これを実行委員だけでなく当日スタッフにも取り組んでもらう事で、より多くのスタッフがおもてなしの心を持って対応することができ、来場者の皆様に本祭をより楽しんで頂けたと思います。



年間交流部長
立命館大学 3 回生
足立 佳樹

年間交流部では毎年関わっている地域に加え、今年新たな地域と交流し企画を行いました。それぞれ違った魅力があり、関わった世代も幅広かったです。その中で誰を対象とした企画にするのかを意識することができました。また、エコについて考える企画の打ち水やクリーンアップではただ行うだけではなく、発信し知ってもらうための工夫を学びました。そして積んだ経験がブレ企画や本祭に生きていたと思います。



総務部長
京都医療科学大学 3 回生
田中 孝信

代々総務部には部署の役割として「縁の下力持ち」という言葉が受け継がれています。そこで今年の総務部では、主に学生祭典の実行委員へできる限りのサポートをしようという気持ちで活動して参りました。総務部として活動していることは地味な裏方の活動かもしれませんが、その活動を怠ると組織がまわらずに全体に支障をきたしてしまう重要な部署です。だからこそ、実行委員からいつも頼りにされ、そこにやりがいを感じながら活動してきました。そんな総務部を私は誇りに思っています。



年間活動



年間活動



祭 国際化プロジェクト



第13回京都学生祭典では、国際化を柱の一つとして主に留学生を対象とした国際交流活動を行ってきました。世界有数の観光地である京都には、沢山の外国人の方が集まります。私たちはその特長を存分に生かし、より多くの外国人の方に京都や日本の文化を積極的に発信していこうと考えました。そこで日本文化を外国人の方に好きになってもらう企画として、留学生を対象に節分体験、お花見、灯籠づくりなどを実施しました。参加者同士の交流を深めることで、相互の文化理解ができ、国内外に京都の魅力発信する活動を通じて京都学生祭典が「国際化」を実現する大きな一歩となりました。

▼イベント開催実績 (参加留学生: 合計 183 名)

開催日時	イベント名	開催場所	参加留学生
2月3日	What's SETSUBUN	キャンパスプラザ京都、八坂神社、高台寺及びその周辺	14名
3月19日	Japanese traditional game	キャンパスプラザ京都、元安寧小学校体育館	8名
4月12日	Cherry-blossom viewing	嵐山中ノ島公園	21名
5月24日	Let's go to the Noh Festa!	今宮御旅所	12名
6月20日	Let's make paper lantern!	元安寧小学校	10名
7月4日	Let's make paper lantern! Part2	向島学生センター	13名
7月5日	Touch the WORLD Touch the KYOTO	イオンモール京都	10名
8月4日	Curry Party & Righting show!	向島学生センター	39名
8月22日	世界への挑戦 in 伏見	伏見7商店街	7名
10月11日	第13回京都学生祭典本祭	平安神宮前・岡崎公園一帯	48名

祭 京都 × 東北 繋ぐ〜 KYOTOHOKU 〜プロジェクト

今年度も昨年度に引き続き、東北地域の仮設住宅地などで京炎 そでふれ! のおどり披露や交流企画を行ったほか、被災地の見学、福島大学災害ボランティアセンターの方々との勉強会などを開催しました。さらに、今年初の試みとなる事後報告会を現地訪問後に実施しました。これは東北で学んだことを京都から発信していくことで震災の風化を防ぐことを目的としています。被災地に直接足を運んだからこそ得られた経験をもとに話しあい、東日本大震災について学生や一般参加者が話し合うことで、学びを一層深めることができました。京都の学生のパワーを感じてもらい、それが復興に向けて歩む東北の人々の力になるよう、これからも活動を続けていきたいと考えています!

- 東北訪問
参加者 90 名 (実行委員 23 名・おどり手 67 名)
5月3日(土)
・福島県福島市松川工業団地第一応急仮設住宅 (57名)
・福島県福島市笹谷東部応急仮設住宅 (77名)
・福島県福島市南矢野目応急仮設住宅 (116名)
・福島県二本松市杉内多目的運動公園広場応急仮設住宅 (38名)
- 5月4日(日)
・福島県双葉郡富岡町 (被災地見学)
・宮城県名取市岡上 (講話)
・宮城県仙台市あすと長町仮設住宅 (28名)
・宮城県名取市愛島東部団地応急仮設住宅 (45名)
・福島県福島市福島大学 (福島大学災害ボランティアセンターの音聲との交流)

- 事後報告会
5月31日(日)
場所: キャンパスプラザ京都
参加者: 61名 (学生 51名・一般のお客様 10名)
概要: 東日本大震災概要・東北訪問報告・京都での災害予測・防災教室 (協力: 大阪ガス株)・身近なものを使った防災グッズづくり



祭 地域交流

- クリーンアップ
今年度も岡崎・安寧・梅運・三条地域で清掃活動を実施しました。日頃お世話になっている4地域での活動は、月に2回の頻度で行っています。クリーンアップ活動を通して地域の皆様との交流を深めるとともに、実行委員の環境に対する意識を高めることができました。
- 夜警
毎月5日に梅運地域、20日に岡崎地域で行われている夜間パトロールに参加させていただいています。地域の皆様と実行委員がともにパトロールを行うことで安全に対する意識が高まり、地域の方々とのつながりを強められる貴重な機会となっています。
- 打ち水
8月に KYO-SENSE プロジェクトの一環として安寧・岡崎・三条・梅運地域、下京区京都市上下水道局にて打ち水を実施しました。さらに今年度は、イベントでお世話になった伏見地域でも打ち水をさせていただきました。実行委員一同、地域の方々に対し感謝の心を持って、エコ活動を行うことができました。

▼年間活動

2月8日	三条地域餅つき大会に参加
4月26日	稲荷祭に神輿担ぎ手として参加
7月5日	Touch the WORLD Touch the KYOTO
7月24日	三条神輿祭の手伝いとして参加
8月1日	下京区京都市水道局打ち水
8月2日	安寧夏祭りの手伝いとして参加
8月6日	伏見地域打ち水
8月8日	エコサマーフェスタ開催
8月22日	世界への挑戦 in 伏見開催
8月24日	三条地域打ち水
8月28日	岡崎地域打ち水
10月11日	本祭
10月25日	学びフォーラム開催

祭 世界への挑戦 in 伏見 (総来場者数: 23,390 名)

8月22日(土)、伏見七商店街・京都国際学生映画祭と連携し、プレイイベント「世界への挑戦 in 伏見」を開催。目玉イベント「ギネス世界記録® 挑戦企画」では、「京炎 そでふれ!」で見事、ギネス世界記録®を達成することができました。
記録タイトル: Largest Contemporary Dance (最大のコンテンポラリーダンス)
認定記録: 616名
また、各商店街では、竹工作体験や伏見わいわいマーケット、伏見ぶら〜り市場、学生映画上映など様々なイベントが行われ、お子様から大人の方さらには外国の方々にも幅広く楽しんでいただきました。京都学生祭典では、今後も新たな地域や団体と共に、「京都の魅力の発信」と「地域の活性化」を目指して様々な連携イベントを開催する予定です。



祭 Touch the WORLD Touch the KYOTO (総来場者数: 7,949 名)

7月5日(日)、イオンモール KYOTO にてプレイイベント「Touch the WORLD Touch the KYOTO」を開催。子どもから大人まで楽しめる企画を実施しました。
○Kaede 広場
・ステージ企画: 民族楽器演奏、書道パフォーマンス、着物ファッションショー、京炎 そでふれ! 披露
・ブース企画: ちび竹体験、フェイスペイント実施

- センターコート
京こまづくり、ビッグヨーヨー、京都釣り、グリッターペイント実施
- Niwa 広場
「京炎 そでふれ!」プレステージ開催

- ◆協力団体
京都大学民族音楽研究会 One More Pint! / 京都橋大学書道部 / 京都教育大学国際交流サークル FIRA / 龍谷大学海外交流委員会 / 京こころ (着物レンタル) / (公財) 京都和装産業振興財団 / 京都美容専修学校 (ヘアメイク) / 南村田堂 / 雀林



祭 KYO-SENSE プロジェクト

KYO-SENSE プロジェクトとは京都学生祭典においてエコ活動を行うプロジェクトです。京都学生祭典は祭の規模が大きくなるにつれ、年々ゴミの量が増え続けていました。そこで「環境にかかる負担をできるだけ減らしたい」「学生が身近な環境問題に取り組むことで、学生から京都へ、さらには日本全国へアタラシイライフスタイルを提案したい」という思いから、2007年に本祭での緑日企画でリユース食器を導入し、2008年に「KYO-SENSE プロジェクト」を発足させました。また、同年5月に京都府知事・京都市長・大学コンソーシアム京都理事長らを賛同人として「KYO-SENSE 共同宣言」を発表し、学生が地域・企業と協力することで活動の基盤を作りました。本祭当日もリユース食器の回収に努めゴミを削減することができました。今後もさらに幅広く環境問題に取り組んでいくことを目指します。

GS YUASA KYO-SENSE サポーター協賛
株式会社 GS ユアサ



🎪 京炎 そでふれ！

「学生のまち 京都」の新たな文化を発信するべく、第3回京都学生祭典から生まれたオリジナル創作おどりです。「京炎 そでふれ！スペシャルバージョン」では、曲、振り、衣装、そして手に持つ四竹（よつたけ）という鳴り物で京都らしさを表現しています。学生たちの燃えるような熱いおどりと想いで京都を盛り上げ、世代を超えた繋がりを全国・世界へと発信していきます。

【2015年度おどり手数：1020名（全12チーム / 23大学・2短期大学）】

○おどり披露

地域のイベントや福祉施設、児童館、京都の観光名所など、年間を通して様々な場所でおどり披露をしています。披露の最後には会場の皆様と「京炎 そでふれ！簡単バージョン」を一緒におどり、様々な年齢層の方に楽しんでいただいています。

【主な披露先】京都市成人式・京都マラソン・京都サンガFC 試合会場・女子プロ野球試合会場・VARSITY BOWL 試合会場・西京極自衛隊駐屯地

○出前教室

教育機関や企業など様々な場所に大学生が出向き、「京炎 そでふれ！」をレクチャーする出前教室を開催しています。学校での文化祭や体育祭、各種団体の発表など様々なニーズに合わせて、スペシャルバージョンや簡単バージョンのおどり指導を行っています。

【主な出前先】京都市内小学校・中学校・高等学校・児童館



🎪 本祭直前「おどり披露・本祭告知イベント」

京炎 そでふれ！をより多くの人に知ってもらおう事、京都学生祭典の本祭動員につなげる事を目的に開催し、3日間で総勢16,700名の方にご覧いただきました。

- 9月20日（日）@伏見稲荷大社
- 9月26日（土）@清水寺
- 9月27日（日）@京都府立植物園（名月鑑賞の夕べにて）

京都にお住まいの方だけでなく、国内はもちろん、海外の観光客の方にも多数見ていただき、国内外に向け、京炎 そでふれ！や京都学生祭典を広めることができました。また、おどり手と実行委員と一緒に広報活動を行う事によって、本祭に向けた士気や、おどり手と実行委員の結束力もより一層高まりました。



🎪 メインビジュアル



第13回京都学生祭典では、初めてメインビジュアルの公募を試みました。全国から寄せられた応募作品32通の中から、厳正なる審査の結果、見事メインビジュアルに選ばれたのは辻梨絵子さん（京都造形芸術大学4回生）の作品です。

このメインビジュアルには、京都学生祭典が主要な柱として掲げている「国際化」を意識した各国の国旗のモチーフや、本祭が行われる神宮道の鳥居、活気あふれる人々のイラストなどが描かれています。誰もが親しみやすいデザインとなっており、今年度の全ての制作物に使用されました。

より多くの人々に、京都学生祭典の魅力を発信するための重要な要素であるメインビジュアルは、来年度も公募予定です。

【審査員紹介（敬称略）】

- 門川 大作（京都市長・京都学生祭典組織委員会組織委員）
- 長谷 幹雄（一般社団法人京都経済同友会 審査会実施時 代表幹事）
- 鶴田 憲次（京都市立芸術大学名誉教授・京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 館長）
- 堀瀬 奈央（第13回京都学生祭典実行委員会 実行委員長）※審査員長



🎪 Opening

神宮道一帯を使って「開演！京炎 そでふれ！」、「京炎みこしパレード」が行われました。京炎みこしパレードでは、留学生20名を含む総勢90名の学生の担ぎ手が参加。和太鼓やマーチング、チアリーディングのパフォーマンスとともにパレードを盛り上げました。京都の学生の力強いパフォーマンスを来場者に見ていただくことで学生の活気や熱いパワーを感じてもらい、祭典の始まりを印象づけました。

○出演・協力団体

開演！京炎 そでふれ！：おどり手約1,300名

京炎みこしパレード

立命館大学神輿会春秋 / 立命館大学ボラっちょ / 京都すまいるプロジェクト / 難民支援研究学生団体 PASTEL / 同志社大学観光サークル GAIA / 同志社大学 CRAWL / 友愛の丘

【協力】京都国際学生映画祭

パレード

京都府立北後高等学校（マーチング）/ 京都造形芸術大学和太鼓専-Shin-（和太鼓演奏）/ 同志社大学 SWEETIEZ（チアリーディング）



🎪 京炎 そでふれ！全国おどりコンテスト

神宮道に設置されたステージで、京都学生祭典オリジナルの創作おどりで競う「京炎 そでふれ！部門」と、様々なジャンルのおどりで競う「ノンジャンル部門」に分かれてコンテストを実施しました。

さらに、コンテストの合間には、日頃、「京炎 そでふれ！出前教室」に参加されている方々によるおどり披露や、「京炎 そでふれ！簡単バージョン」のレクチャーを行い、来場者の皆さんにも参加していただきました。

○参加団体数

- ・京炎 そでふれ！部門：18団体
- ・ノンジャンル部門：35団体
- ・披露部門：43団体

○審査基準

作品・技術・パワー・チームワークの良さなどの要素を総合し、その演舞が「どれだけ心に響いたか」を採点して競う。

○決勝

予選を勝ち抜いた上位3団体が決勝に進出。審査員による審査の他、観客投票を実施し、それらを合計し優勝団体を決定しました。



京炎 そでふれ！部門
優勝 京炎 そでふれ！彩京前線
(京都大学・京都府立大学)



ノンジャンル部門
優勝 ピンクチャイルド



- 京炎 そでふれ！部門
準優勝 京炎 そでふれ！おどりっつ
(立命館大学)
- 3位 京炎 そでふれ！輪舞曲
(龍谷大学・京都ノートルダム女子大学)
- ノンジャンル部門
準優勝 京都文教中学高等学校ダンス部
- 3位 和っしよいモダン！

🎪 そでふれ the world



そでふれ the world では、来場者の皆様と一緒に京炎 そでふれ！簡単バージョンを踊って世代を超えた交流の場を作り、京炎 そでふれ！の世界を楽しんでいただきました。また会場にはフェイスペイントコーナーやちび竹装飾コーナー、おどり手の衣装を着用できるコーナーもあり、子どもや外国人の方々にも人気の企画となりました。

より多くのお客様に京炎 そでふれ！ホストチームを知って、触れていただくために各ホストチームのグッズ販売を行いました。また全チームの缶バッジのデザインの1位を決める「缶バッジコレクション」を行い、グッズを購入していただいたお客様にどのデザインが一番良かったか投票していただきました。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 缶バッジコレクション投票結果 | 1位：京炎 そでふれ！京小町 |
| | 2位：京炎 そでふれ！彩京前線 |
| | 3位：京炎 そでふれ！志舞踊 |

Kyoto Student Music Award



【Kyoto Student Music Award】

(出場数：21 団体)

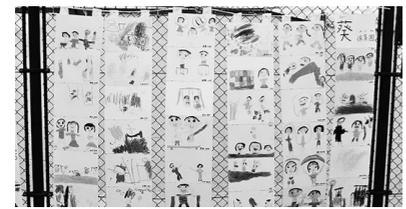
- 優勝 SHABA
- 2位 The Amulet Door
- 3位 work from tomorrow



今年 4 年ぶりに復活を遂げた、“Kyoto Student Music Award”。京都の大学出身者からも数多くのプロを輩出している音楽のジャンルで、現在精力的に活動している学生を集めてバンドコンテストを行い、学生の音楽活動を発信しました。予選を勝ち抜いた合計 12 団体が演奏し、楽曲・歌詞・技術・素質・世界観・パフォーマンスの計 6 項目の審査によりグランプリを決定しました。

げんきっずフェスティバル 2015

今年のげんきっずフェスティバル 2015 は「今日、京都から新しい一歩へ」をテーマに、子どもたちや留学生・海外からの観光客にさまざまな企画を楽しんでいただきました。普段体験できないような京都や海外の文化に触れてもらい、来場者の皆様には京都への関心を深める新しい一歩を提供できました。たくさん子どもたち・留学生・観光客にお越しいただき、岡崎グラウンドはたくさんの笑顔であふれました。

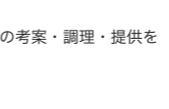


実施企画

- ぬり絵で君だけのロゴマークを作ろう！
京炎 そでふれ！ホストチームのロゴマークを使ったぬり絵コーナー。
- わくわくキッズミュージアム
京都市内の園児・児童が描いた絵を組み合わせてつくる大きな絵の展示。美術の分野から世界を感じてもらえる世界の動物 MAP の展示。
(協力：京都市内幼稚園・保育園、京都市立錦林小学校)
- ピククリ広場
科学の不思議を楽しめる空気砲やカラフルなスライムづくり。
- 作って遊んでキッズハッピー♪ゾーン
日本の伝統楽器、リサイクルできる身近なものを使った ECO 楽器の作成を体験。
京こまやリサイクル用品を使ったおもちゃづくり。
(協力：有限会社村田堂、京都府立北稜高等学校)
- ほな遊ばか〜！一わんぱく☆スポーツゾーン
留学生と楽しむサッカーゲーム、その他さまざまなスポーツゲーム。
(協力：株式会社京都パープルサンガ)
- スタンプラリー
各ブースをまわってスタンプ集め。すべて集められた子どもにはプレゼントを進呈。
(デザイン協力：京都市立銅駝美術工芸高等学校)

おもてなし企画

- 縁日企画
学生グループに京都の食材を使用した世界各地の料理の考案・調理・提供をしてもらいました。
- 食のおもてなしグランプリ結果 (出場数：19 団体)
優勝 京都産業大学 Volunteer Team CSA 「ジャーマンポテト (ドイツ)」
2位 立命館大学 京文化研究会 「塩焼きそば (日本)」
3位 関西インカレテニスサークルととりおん。「パンケーキ」
- 【おもてなしグランプリ出店】学生グループ 19 団体
【世界のグルメブース出店】6 団体
コスモズニューヨークコーヒー (アメリカ)/
納屋町ワイン食堂カガネル (スペイン)/ニューデリー (インド)/
カーサントアネッタ (ルーマニア)/和、岡崎自治連合会
【協力】ecotone / ラ・キャリエール クッキングスクール
- 文化企画
竹でクリエイティブブースでは、子どもを中心に竹を使った遊びを紹介。現代の竹離れによる京都の放置竹林問題について紹介しました。また、お箸づくりや起きあがり小法師づくりを通じ、竹の温かみや有用性を実感してもらいました。
その他、ちりめんブースでは、コースターづくりやヘアゴムづくりを楽しんでもらいました。
異 SHOW 体験ブースでは、着物の試着や民族衣装の展示を行い、素材や柄などの各国独自の文化を肌で感じてもらいました。
【異 SHOW 体験ブース協力】着付けボランティア OBEBE



- 観賞企画
おもてなしステージではお笑い、落語、書道パフォーマンスなど、日本の文化を感じていただけるようなパフォーマンスに加え、マジック&ジャグリングや多国籍音楽の披露も行い、海外の文化も感じてもらいました。展示コーナーでは、岡崎中学校との連携企画で牛乳パックを使った手作り灯籠体験をしてもらい、場内演出として夜間にライトアップしました。
- 【出演】
立命館大学：出前ちんどん (ちんどん演奏)/ 書道部 (書道パフォーマンス)/ お笑い LIVE (お笑い)/
同志社大学：Hocus-Pocus (マジック&ジャグリング)/ 大谷大学落語研究会 (落語)/
京都造形芸術大学和太鼓サークル恵 (和太鼓演奏)/ 佛光大学 SHOUCASE (漫才)/
京都畿大放送研究部 (ステージ MC)



- 企業 PR ブース
京都学生祭典を応援して下さる協賛企業の皆さんに各社の取り組みを紹介していただきました。
- 【出展企業】
ローム株式会社、株式会社GSユアサ、アットホーム株式会社、株式会社キャリアパワー、株式会社 堀場製作所、ニチコン株式会社
- 【行政・大学ブース】
京都府 / 京都市 / 京都市こみ減量推進会議 / 京都市水道局 / 立命館大学 / 京都産業大学 / 大谷大学



- 地域の商品
日頃の交流活動でかわりの深い地域の中から、三条と伏見の地域のご協力で各地の特産品を集めて販売。来場者に京都の地域の魅力を発信しました。
- 【出店】ミールミィ (三条地域) / 伏見手作り市 (伏見地域)



Grand Finale

第 13 回の Grand Finale は、会場を平安神宮境内から神宮道に移して行われました。各種コンテスト優勝団体によるパフォーマンスのほか、「国際化」にちなんで企画された「民族衣装ファッションショー」では、総勢 12 名の留学生が日本の着物を身にまとい、モデルとなって出演。今年積極的に取り組んできた「国際化プロジェクト」の集大成となる企画となりました。また、ラストには、毎年恒例の来場者参加型の京炎 そでふれ！総おどりが行われました。神宮道を中心に新しく生まれ変わった岡崎公園全体を見渡す、一体感のあるステージで、来場者一人ひとりの「あなた」を魅了した、第 13 回京都学生祭典の閉幕にふさわしいステージとなりました。





実行委員インタビュー



実行委員インタビュー



🎉 実行委員インタビュー～来年度の京都学生祭典をより良くしていくために～

『京都があなたを魅了する』のコンセプトのもと、祭典の成功に向け努力した実行委員3名にインタビューを行いました。活動資金を集めるため企業訪問等を重ねる営業部、本祭での来場者数をより増やすために広報活動を行う広報部、来場者を引き込む企画を考案し、実施する企画運営部。各々立場の異なる3人が今年度の本祭までの道のりを振り返り、祭典活動を通して得られたことや、来年度の抱負について語っていただきました。



営業部 個人サポーター部門
松下千紘
京都女子大学2回生



広報部 動員戦略部門統括
藤田恭未
立命館大学1回生



企画運営部
亀田瞭汰
京都学園大学2回生

— まずは京都学生祭典実行委員会に入ったきっかけを教えてください。

(松下)
私は大学で音楽教育を学んでおり、学生祭典に入るまで音楽以外で新しいことに取り組んだことがありませんでした。大学生のうちに音楽とはまた違ったものにも挑戦してみたいと思い入りました。

(亀田)
高校3年生の時に祭典実行委員が行っている学びフォーラムというイベントに参加し、祭典で活動する大学生の楽しそうな姿に魅力を感じたことがきっかけです。大学生にしかできないことに挑戦したいと思ったことも理由の一つです。



— 今祭典で頑張っていることは何ですか？

(松下)
営業部員として、ご支援いただいている企業様への訪問をしています。自分が所属する個人サポーター部門の今年度の活動で、およそ50万円の資金をいただくことができました。

(藤田)
広報部は本祭に向けて来場者を惹き付ける仕事をする部署です。そのため私自身も自分に自信をつけ、人を惹き付けることを目標に頑張っています。

ます。また、動員戦略部門でのキャラバン活動（街頭でのチラシ配布活動等）にも率先して参加しています。多くの方に広報物を届けられるよう、物怖じせず大きな声で話すことを心がけています。

(亀田)
本祭のオープニングで、京炎みこしパレードを復活させたことです。一度廃止された企画なので、安全性の確保や担ぎ手集め、みこしの修復などの土台を一から作らなければならない点で苦労しました。しかし沢山の方々にサポートしていただき、パレードが成功したときは本当に嬉しかったです。

— 祭典での活動はどのような時に役立つと思いますか？

(松下)
初めは敬語で自分の思いを伝えることを大変に感じたこともありましたが、今では企業に訪問する際に必要なビジネスマナーや、コミュニケーション能力を身につけることができたことと自負しています。普段目上の方と接する際でも、訪問の経験で身につけた丁寧な言葉遣いや、マナーが役立ちます。

(藤田)
大学でのグループワークの時など、誰よりも率先してグループをまとめるようになりました。そのおかげで頼られるようになり、成長したことを実感しました。また、日々の会議では部員に楽しいと感じてもらえるように、クイズ形式を取り入れました。これからはもっと沢山のひとたちと出会って、どんな方でも私と話して楽しいと思ってもらえるような場を創り出したいです。

— 祭典に入ってよかったことは何ですか？

(松下)
京都の様々な大学の友達・先輩・後輩ができたことはもちろん、その仲間とともに「本祭を成功させる」という一つの目標に向かって活動していくことに大きな意義を感じています。本祭までの道のりですでにいた時には助け合い、うまくいったときには喜び合う仲間がいます。そういうところが、祭典に入ってよかったと感じています。また、私は人の笑顔を見るのが好きなので、祭典のイベントなどでもお客さんが笑顔で帰ってくるところを見ると、祭典に入ってよかったと感じます。



(藤田)
普段学校の友達と自分の夢や目標について熱く語ることはあまりなく、少し恥ずかしいと感じていました。しかし祭典ではみんなで同じ目標を持って真剣に取り組むことができます。自分の想いを打ち明け、熱く語ってもそれに反応してくれる人たちがいるので、自分の意見や素の部分の隠さなくてもよく、本当にすばらしい場所を見つけたと思っています。

(亀田)
一番は、他大学の人と仲良くなれたことです。去年同じ部署だった仲間とは今でも旅行に行ったりと、とても仲が良いです。そして今年は京炎みこしの担当者として色々な外部の団体とコンタクトを取る場面がありました。そのように祭典以外の人との関わりも持ったことで、自分にはない考え方を吸収し視野を広げることができました。

— 第13回の課題は何だと思いませんか？また第14回ではそれをどのように改善していきたいですか？

(松下)
実行委員同士がお互いに意見や反省点を共有することは普段の会議などでできていますが、外部からの祭典に対する声を共有する機会がありませんでした。第14回では全体で共有する機会を設け、祭典の中心である執行部だけでなく実行委員全体で、より良いものをつくるにはどうすればいいのかを考えていけるようにしたいです。

(藤田)
私もそう思います。第14回ではどのような企画をどこでやるのかといった情報をもっと早く知ることができれば広報活動もより具体的にできるようになります。また本祭当日の話だけでなく、年間を通して他部署がどのような企画を実施しているのかということも全体で共有できたらより良い祭典になるのではないかと思います。例えば、部長などの役職に就いていなくても上役のみで行う会議の内容を把握したい人は自由に会議の様子を見学できるようにするなど、できることはたくさんあると思います。

— 第14回京都学生祭典に向けての抱負を聞かせてください。

(松下)
第14回での私の目標は、一人でも多くの人を笑顔にすることです。本祭当日に笑顔になっていただくのはもちろんですが、年間活動の中で交流のある地域の方々や学生祭典に関わっていただいた方々を、私たちの活動で笑顔にしたいと思っています。自分が笑顔でいれば相手も笑顔になってくれると思うので、私はどんなに辛いときにも笑顔でいようと心がけています。



(藤田)
第13回では広報部動員戦略部門の統括をやらせてもらいました。そこで動員数を増やすためには私たちがのみが頑張らなければならないと思っていましたが、本祭が終わってから初めて他の部門も含め広報部全体が動員数を増やすための活動をしているんだと気づきました。第14回では、自分の目の前のことだけでなく広報部内全体を見渡し、それぞれがどのような活動をしているのかをもっと知りたいです。どこの部門に入ってもお客さんを楽しませるということを常に考え、動員数をあげるための工夫を広報部全体でしていきたいです。

(亀田)
個人的には第14回でも再びオープニングで京炎みこしを担げるようにしたいです。そこでみこしのすこさをより多くの人に伝えたいです。僕自身も担当者になり練習風景を見て初めてみこしの持つパワーを実感しました。来場者の方々にも「わっしょい！」というかけ声を言ってもらえるような、一体感のある祭りにしたいですね。それに向けてみこしチームやプロジェクトを組んで、祭典の外部にもみこしのすこさを発信できたらいいと思います。



司会【広報部 制作部門】
新井瑠梨（京都医療科学大学）
木村咲季（京都女子大学）
成田智海（京都女子大学）

新聞掲載記事一覧



京都新聞 10月9日朝刊 17面
【成功に向け、一致団結】



朝日新聞 10月12日朝刊 27面
【京都学生祭典、にぎやかに】



京都新聞 10月12日朝刊 1面
【「炎」舞 1000人 情熱躍動 京都学生祭典】



毎日新聞 10月12日朝刊 24面
【1300人 迫力の舞】

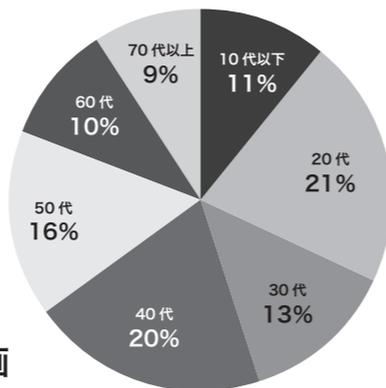


産経新聞 10月12日朝刊 20面
【創作ダンス 京都の魅力発信
平安神宮などで「学生祭典」】

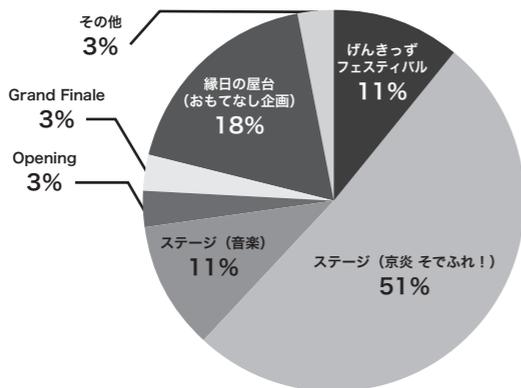
アンケート

回答者数：659

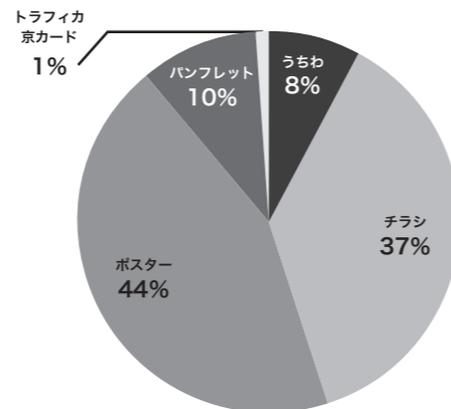
来場者年代 (人)



本祭の人気企画



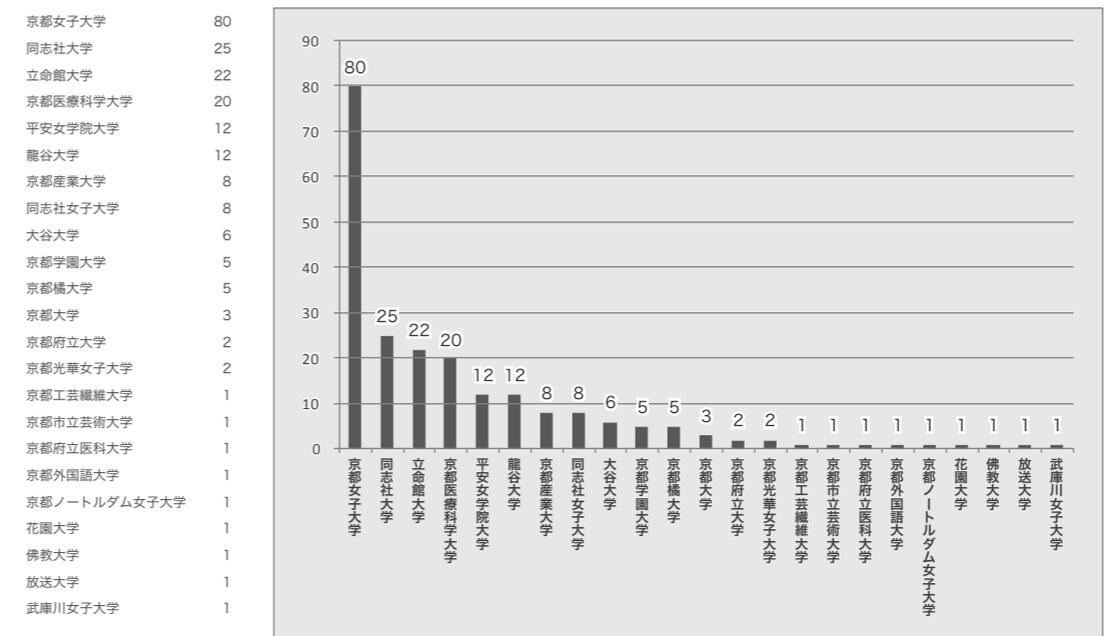
京都学生祭典を知るきっかけとなった広告



実行委員会名簿 (総勢 219名)

【実行委員長】 堀瀬 奈央	【おもてなし企画】 青木 亮磨 松田 直也 湯川 蓉子 伊藤 奈都子 川本 楓 小林 由佳 斉藤 翔子 下川 寛世 橋本 美里 松井 世那 山本 夏葵 若林 花奈	【学生文化企画】 吉田 菜見 堀江 昂汰 湧川 知子 生田 佑介 松本 恭平 伊勢 聖大 北隅 燈 杉山 健 竹内 夢乃 田村 友花 辻本 理佐子 藤木 優圭	【広報部】 井上 裕生 青谷 行人 川野 雄基 荒木 冬威 三村 知之 中井 強 樽谷 真幸 川島 望 新井 瑠梨 湯浅 樹 窪田 ひかり 船越 梨乃 安倍 朱音 新貝 賢二 吉田 英美 高垣 翔平 松代 拓也 藤原 圭佑 瀧上 友輝 武江 史奈 倉橋 奈央 林 和希 木村 咲季 岸田 友里 若林 美次 益谷 祈 石川 沙利亜 西村 理沙 林 汐帆美 中野 らな 藤田 恭未	松島 聖奈 前中 彩夏 楠瀬 夏美 佐藤 怜奈 松本 奈緒子 成田 智海 前田 未真 高垣 花菜	【警備部】 三浦 慧 大西 直希 小林 加奈 山下 菜央 山本 真由香 朝倉 真有 池口 美緒 池田 友哉 井上 弓絵 今川 英美利 大西 佑果 大原 光生 小野 貴司 方山 空 加藤 千晶 小宮山 織 真田 義仁 地家 滯香 清水 美帆 新長 捺未 丹新 量太 中川 祐理子 手塚 和也 供田 美紀 長濱 奈央 川井 渚 喜馬 爽 小池 巴梨 八村 弦也 藤井 健志朗 松田 千佳 村上 萌恵	吉田 依里子 若山 健策	【年間交流部】 足立 佳樹 森 雄大 樋口 友香 佐藤 希美 青野 寛代 石永 理紗 桑原 麻由 萱野 文菜 西川 文悟 前出 優奈 天野 翼 佐々木 良輔 輪玉 紗江 飛田 ほか 田中 早紀 高橋 和湖 福田 真梨乃 戸崎 崇文 高橋 葉菜 萩野 亜美 川又 京子 櫻川 理沙子 高橋 美帆 町田 彩実 柿迫 利香	齊藤 あずさ 岡田 裕規 杉本 雅希 有田 知世 北岡 祐典 岡本 彩葉 宮地 陶子 吉富 宙 藤原 慶典 久葉 仁美 別府 晶子 佐土 未紗希 本田 有沙 盛山 海帆 前田 智子 岩井 遥 宮川 紗希 村主 瀬成 今川 桃子
【副実行委員長】 河上 葵 中山 仁人 西村 和胡	【企画運営部】 漆間 智彦 東 優花 杉村 萌 仲村 美紀 林 祐子 溝口 亜耶	【OPGF 企画】 四方 梓 神田 愛弓 亀田 瞭汰 雀部 まい 宮口 侑也 古賀 友也 後藤 美南 白川 優 調 雅梨子 瀬野川 真由 高島 由紀 高畑 咲季 竹内 有衣 橋本 成葉 堀瀬 紗英 山本 麻由	【げんきっず フェスティバル2015】 西川 綾香 米川 鈴花 長谷川 真子 野本 悠史 山崎 晃平 吉久 直希 青山 奈緒 蔵元 美桜 小林 知美 高橋 菜緒 中本 圭名子 早川 春香 藤村 優衣 三輪 浩翔 米田 信 渡邊 芽里奈	【営業部】 石津 菜優 北川 拓海 松下 千紘 池田 喬 山下 俊介 奥野 文也 西江 有加 松山 望乃 森川 華 船越 美里 坂野 まどか 竹本 亜弥 中村 伊千穂 星加 理沙 押見 彩花 樹下 莉奈	【おどり普及部】 吉本 良太 岡山 光里 牧野 真人 村田 政弥 土岐 紗穂 館 ひかる 中村 輝士 下垣内 美櫻 大西 亜希 佐原 寛子 角田 虎勇 藤沢 ひかり 中川 祐理子 篠原 鈴佳 岡部 紗弓 田中 真優 中富 陽介 鎌田 彩加 内藤 真帆 端 珠実	【総務部】 田中 孝信		

所属大学一覧 (全 23 大学)



協賛企業一覧

今年も京都を中心に多くの企業様よりご協賛を賜りました。ご支援くださる企業の皆様と触れ合う中で、多くの激励、またご指導のお言葉を頂きました。それらの一つ一つが私たちの日々の活動の励みとなっています。いつも本当にありがとうございます。

●特別パートナー協賛

株式会社ユーシン精機
株式会社ワコール
株式会社 アイビーインターナショナル
有限会社 アトリエニライ
株式会社 アンタレスコーポレーション
安藤不動産株式会社
いきいきうどん 烏丸御池店
株式会社おいかぜ
株式会社王将フードサービス
株式会社大阪城口研究所
おつかいもの本舗
オムロン株式会社
ニチコン株式会社
日本写真印刷株式会社
株式会社 堀場製作所
着物レンタル 京都祇園屋
京セラ株式会社
株式会社京都銀行
京都中央信用金庫
株式会社 島津製作所
大学生協京都事業連合
宝酒造株式会社
タキイ種苗株式会社
日東薬品工業株式会社
株式会社村田製作所

●KYO-SENSE サポーター協賛

株式会社 GS ユーア
アットホーム株式会社
アラソールホテル京都
イオンモール KYOTO
株式会社 キャリアパワー
京都信用金庫
株式会社 長栄
ニチコン株式会社
日本写真印刷株式会社
株式会社 堀場製作所
着物レンタル 京都祇園屋
京セラ株式会社
株式会社京都銀行
京都中央信用金庫
株式会社 島津製作所
大学生協京都事業連合
宝酒造株式会社
タキイ種苗株式会社
日東薬品工業株式会社
株式会社村田製作所

近鉄ビルサービス株式会社
株式会社 きんでん京都支店
株式会社 グローバルリソースメントマネジメント
月桂冠株式会社
株式会社 公益社
向塾
シライ電子工業株式会社
スター株式会社
成基コミュニティグループ
株式会社ゼネックコミュニケーション
TAKAMI BRAIDAL
株式会社グッハランド
筒城造園土木株式会社
株式会社 テクノ菱和
東京海上日動火災保険株式会社
株式会社 東畑建築事務所
内定塾
株式会社 ナベル
日本教育旅行株式会社
日本新薬株式会社
株式会社 ビーイング
株式会社 福寿園
株式会社 堀場エステック
株式会社 増田組
株式会社 丸久小山園

●物品協賛

株式会社 アンタレスコーポレーション
今西製菓株式会社
イスタンブール サライ
小川珈琲株式会社
おつかいもの本舗
京ごころ
京都タワー株式会社
株式会社 京都パープルサンガ
公益財団法人 京都和装産業振興財団
株式会社 清水漬物商会
有限会社 昇苑くみひも
(有) 竹平商店
有限会社 村田堂
F7 プロジェクト

個人サポーター

今年は、合計 153 組 526,000 円のご支援を賜りました。それらは、京都学生祭典実行委員会の活動経費等に大切に使用させて頂きました。誠にありがとうございました。

café 月のとき
mikan
MIYAKO BAKERY
青木育代
秋山翔
阿津満寿司
油長茶舗
あぶり屋
新井和彦
新井章好
石津定
石本陽風堂
磯野良隆
一色正恵
糸井淳一郎
漆間盛由
大西博樹
柿沼直樹
学生交流事業部一同
学友堂靴店
片山タミ店
買取専門店 大吉
株式会社 小野デンキ
株式会社 和田勝

カワライ薬局
神田一郎
きたせ昆布老舗
木村光博
京極屋
京都医療科学大学 山口佳紀
京都学生祭典同窓会 2015
京都女子大学 倉本祥子
京都女子大学 芝原玄記
京都女子大学 鈴木康浩
京都女子大学 図書館一同
京都女子大学 林忠行
京都女子大学 諸岡晴美
京都女子大学 本部法人事務室 居相美德
京都女子大学 本部法人事務室 櫻村健一
京都女子大学 本部法人事務室 川瀬裕之
京都女子大学 本部法人事務室 楠木純子
京都女子大学 本部法人事務室 竹内康弘
京都女子大学 本部法人事務室 芳賀祐紀子
京都女子大学 本部法人事務室 山田さやか
京都女子大学 本部法人事務室 山田真帆
京都女子大学 本部法人事務室 吉田晋
吟醸酒房油長
倉橋基

古屋奈智子
こん平
斉藤克彦
櫻井秀志
酒向厚輔
ササキパン本店
澤木桃子
澤田洋二
浄土寺晃
生活空間 ASANOYA
第 6 回京都学生祭典執行部一同
第 9 回京都学生祭典執行部一同
第 11 回京都学生祭典実行委員会一同
高島啓
高田紗緒里
高見商店
瀧上光広
竹之内正臣
田中あい
田中翔
田原秀朗
トイズかめた
戸田真二郎
中川雅之

永友貴之
中野和俊
西江満梨
西村啓
西山正晃
バッグショップ サハラ
春城時計店
藤田拓哉
藤野裕也
伏見さらしな
不二門夏葵
ふじわらや
婦人服 キタムラ
本田淳一
フルーツランド イケモト
堀田幸平
増井和久
松本堂
マルト花店
万月雅博
三浦直子
みやこ和ん館
ミュラー
桃山堂

広報物一覧

新実行委員・おどり手募集ポスター	新実行委員・おどり手募集チラシ	スタッフTシャツ	うちわデザイン
伏見チラシ (表・裏)	伏見垂れ幕	A4チラシ (表・裏)	A5チラシ (表・裏)
市政広報板ポスター	京都市営地下鉄中吊りポスター	A2ポスター帯あり	A2ポスター帯なし
祭典のほり	トラフィカカード	クリアファイル	公式パンフレット
交通規制チラシ	当日ガイドマップ		

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 加盟校

●国立大学	京都華頂大学 華頂短期大学 京都看護大学 京都医療科学大学 京都外国語大学 京都外国語短期大学 京都学園大学 京都経済短期大学 京都光華女子大学 京都光華女子大学短期大学部 京都嵯峨芸術大学 京都嵯峨芸術大学短期大学部 京都産業大学 京都女子大学	京都精華大学 京都西山短期大学 京都造形芸術大学 京都橘大学 京都ノートルダム女子大学 京都美術工芸大学 京都文教大学 京都文教短期大学 京都薬科大学 種智院大学 成安造形大学 成美大学 成美大学短期大学部 京都聖母学院短期大学	同志社大学 同志社女子大学 花園大学 佛教大学 平安女学院大学 平安女学院大学短期大学部 明治国際医療大学 立命館大学 龍谷大学 龍谷大学短期大学部 大阪医科大学 京都情報大学院大学 放送大学 京都学習センター
-------	--	---	---



主催：京都学生祭典実行委員会

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内

TEL：075-353-9432 E-mail：festa@consortium.or.jp

URL：http://kyoto-gakuseisaiten.com/

共催：京都学生祭典組織委員会

(京都府 / 京都市 / 京都商工会議所 / 一般社団法人京都経済同友会 / 公益財団法人 大学コンソーシアム京都)

特別協力：平安神宮

後援：総務省 / 京都府教育委員会 / 京都市教育委員会 / 公益社団法人 京都青年会議所 / 公益社団法人 京都市観光協会 / 公益財団法人京都和装産業振興財団 / 京都商店連盟 / 京都新聞 / 朝日新聞京都総局 / 毎日新聞社 / 読売新聞京都総局 / 産経新聞社京都総局 / 日本経済新聞社京都支社 / 中日新聞社 / 株式会社毎日放送 / KBS 京都 / エフエム京都 / 京阪電気鉄道株式会社 / 京福電気鉄道株式会社 /

協賛：アットホーム株式会社 / アランヴェールホテル京都 / イオンモール KYOTO / 株式会社 キャリアパワー / 京都信用金庫 / 株式会社 長栄 / ニチコン株式会社 / 日本写真印刷株式会社 / 株式会社 堀場製作所 / 着物レンタル 京都祇園屋 / 京セラ株式会社 / 株式会社 京都銀行 / 京都中央信用金庫 / 株式会社 鳥津製作所 / 大学生協京都事業連合 / 宝酒造株式会社 / タキイ種苗株式会社 / 日東薬品工業株式会社 / 株式会社 村田製作所 / 株式会社 ユーシン精機 / 株式会社 ワコール /

特別パートナー協賛：



KYO-SENSE サポーター協賛：

